高齢夫婦世帯における子や孫とのレジャー・旅行

上席主任研究員 北村 安樹子

目次

1. はじめに……10
2. 高齢夫婦世帯における子や孫とのレジャー・旅行の実態……11
3. 高齢夫婦世帯における子や孫とのレジャー・旅行の意向……14
4. まとめ……15

要旨

①高校生以下の孫がいる60～70代の夫婦世帯男女を対象とするアンケート調査から、子や孫とのレジャー・旅行に関する実態と今後の意向を探った。

②子や孫とのレジャー・旅行の経験者の割合は、「買い物（80.5%）」、「日帰り旅行（59.3%）」、「泊まりがけの国内旅行（56.3%）」、「映画・コンサート・スポーツ観戦（47.4%）」、「海外旅行（15.3%）」となっている。経験者の割合は、孫の続柄が息子の子より娘の子の人で高い傾向にある。

③子や孫とのレジャー・旅行の経験者では、その際の費用負担に関して「あなたや配偶者が負担した場合の方が多い」と答えた人が83.2%を占める。老後の生活資金の見通しに関して「心配である」と答えた人においても、親世帯が費用を負担する傾向が強い。

④子や孫とのレジャー・旅行の経験者が最も印象深かった行き先としてあげた場所は、「テーマパーク・遊園地」（12.3%）が最も多く、「温泉」（11.7%）が僅差でこれに続いた。孫が楽しめるだけでなく、子や親も楽しんだり、心身を休められる場所が上位にあげられている。

⑤子や孫とのレジャー・旅行に関して、具体的な行き先の希望をもつ人は８割近くを占め、「もう行けない」「行くことができなくなった」などと答えた人では、その理由として、孫の成長や健康状態の変化等をあげる人が多くみられた。老後のライフデザインにおいて、子や孫とのレジャー・旅行等を親が望むのであれば、孫の成長や親夫婦の健康状態の変化も見越して、その時期を早めに意識することも必要になる。

キーワード：高齢期、孫消費、レジャー・旅行

1. はじめに

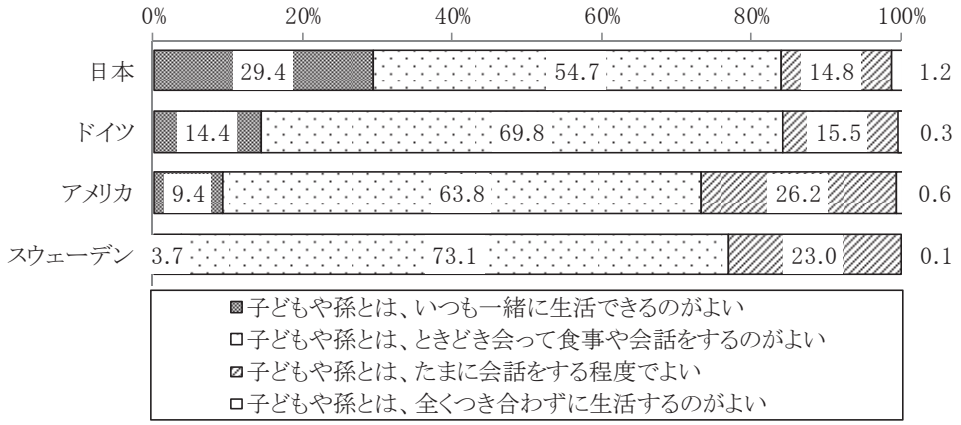
(1)高齢夫婦世帯における子や孫とのコミュニケーションと消費

家族観の変化や社会保障制度の発展にともなって、わが国では三世代同居が減少し、子や孫と別居する高齢者が増えている。現在、日本では老後における子や孫とのつきあい方に関して、「子どもや孫とは、ときどき会って食事や会話をするのがよい」とする人が54.7%を占めて最も多い(図表1)。一方、「いつも一緒に生活できるのがよい」とする人は29.4%で、ドイツ(14.4%)、アメリカ(9.4%)、スウェーデン(3.7%)に比べれば未だ高い水準にあるが、先の「ときどき会って食事や会話をするのがよい」に比べて20ポイント以上も低く、時系列でみた場合、減少が著しい(図表省略)。

高齢世代の価値観の変化を背景に、ふだんは別々に暮らす子や孫と、ときどき会ってコミュニケーションをとったり、余暇をともに過ごすことが、親の老後生活の新たな楽しみとなっている面もある。社会的にはそうした際に親が子や孫のために使うお金(いわゆる「孫消費」)の動向も注目されている。少子化で「孫」にあたる世代の人数が先細りするなか、人口ボリュームの大きい親世代が子や孫と食事や買い物、旅行等で使う「お金」が注目されているためである。

このようななか、高齢期を迎えた夫婦のライフスタイルにおいても、定年年齢をはじめ、夫婦それぞれの健康状態をめぐる状況が多様化している現状がある。例えば夫が会社員の夫婦では、夫が60歳を迎えて以降、収入をともなう仕事から離れるまでの期間を「リタイア移行期」として夫婦の働き方を検討したり、夫婦のどちらかに介護が必要になるまでの夫婦の「健康寿命期」を意識したライフデザインを描いておくことが重要になってきている(北村 2012)。また、子世代の晩婚・晩産化によって、自身がかなり高齢になってから孫育てや配偶者の介護に向き合う人も少なくない。こうした状況をふまえれば、子や孫とのコミュニケーションや余暇を楽しみなが

図表1 老後における子や孫とのつきあい方に関する意識(国際比較)



注:内閣府(2016)「平成27年度 第8回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果」より筆者作成

ら夫婦がともに元気で老後生活を送れるのは、長い高齢期の限られた期間に過ぎないのかもしれない。

以上のような問題意識のもと、本稿では全国の60～70代の夫婦２人世帯男女を対象とするアンケート調査から、子や孫とのコミュニケーションや余暇の具体的なケースの１つとして、子や孫とのレジャー・旅行の実態を分析する。その中で、「孫消費」など費用負担の現状もみることで、親・子・孫のレジャー・旅行に関する課題について考察する。

(2)調査概要

調査の概要は図表２のとおりである。回答者の平均年齢は67.5歳（図表省略）、性別・年代等の内訳は図表３のとおりとなっている。

図表2　アンケート調査の概要

■調査名	シニア夫婦世帯の別居家族との交流に関する調査
■調査対象	人口10万人以上の都市に居住し、高校生以下の孫がいる60～70代の夫婦2人世帯男女
■サンプル数	1,068名
■調査方法	インターネット調査 （株式会社クロス・マーケティングのモニター）
■調査時期	2016年1月

図表3　回答者の主な属性

		N	%
性別	男性	534	50.0
	女性	534	50.0
年代別	60～64歳	308	28.8
	65～69歳	422	39.5
	70～74歳	242	22.7
	75～79歳	96	9.0
孫の人数	1人	257	24.1
	2人	303	28.4
	3人	214	20.0
	4人	167	15.6
	5人以上	127	11.9

2. 高齢夫婦世帯における子や孫とのレジャー・旅行の実態

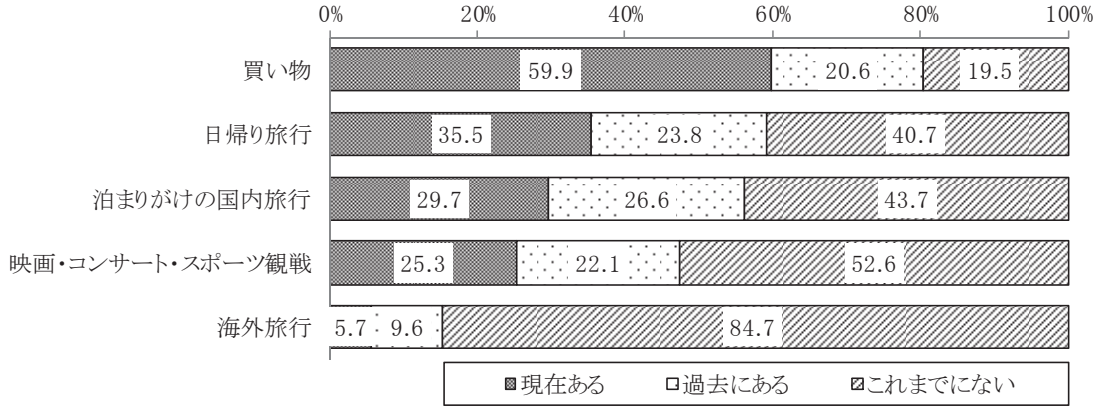
(1)レジャー・旅行の経験

はじめに、子や孫とのレジャー・旅行の経験についてみる。なお、今回の調査では、回答者が最も親しくつきあっている「孫」およびその親である「子」との関係についてたずねている（以下同じ）。

「買い物」「日帰り旅行」「泊まりがけの国内旅行」「映画・コンサート・スポーツ観戦」「海外旅行」の５項目についてたずねたところ、経験者の割合（「現在ある」および「過去にある」の合計割合、以下同）が最も高かったのは「買い物」で80.5%を占めた（図表４）。以下、「日帰り旅行」（59.3%）、「泊まりがけの国内旅行」（56.3%）、「映画・コンサート・スポーツ観戦」（47.4%）、「海外旅行」（15.3%）の順となっており、日帰りや泊まりがけの国内旅行では半数を超える。

また、これら５項目のいずれかについて経験があると答えた人は86.9%であった。主な属性別にみた場合、経験者の割合は、孫の続柄が息子の子の人より娘の子の人で高い傾向にある（図表５）。図表は省略するが、娘世帯と30分以内の範囲までに近居す

図表4　子や孫とのレジャー・旅行の経験（全体）



図表5　子や孫とのレジャー・旅行の経験者の割合
（全体、性別、孫の学齢別、孫の続柄別、所要時間別、老後資金の見通し別）

（単位：%）

	n	買い物	日帰り旅行	泊まりがけの国内旅行	映画・コンサート・スポーツ観戦	海外旅行	いずれかの経験あり
全体	1,068	80.5	59.3	56.3	47.4	15.3	86.9
＜性別＞							
男性	534	78.5	59.2	55.8	48.5	15.2	85.2
女性	534	82.6	59.4	56.7	46.3	15.4	88.6
＜孫の学齢別＞							
就園前	245	69.8	40.8	39.2	27.8	13.5	75.9
園児	277	83.0	55.6	50.9	38.6	10.8	88.8
小学生	385	87.3	69.4	65.2	59.7	17.4	92.2
中高生	161	76.4	69.6	70.2	62.7	20.5	87.6
＜孫の続柄別＞							
息子の子	460	73.9	53.0	49.6	41.3	13.9	82.4
娘の子	605	86.0	64.1	61.5	52.1	16.2	90.6
＜所要時間別＞							
15分以内	256	87.1	69.1	65.2	57.0	15.6	91.8
30分以内	169	85.2	61.5	59.2	49.1	16.6	90.5
1時間以内	233	80.7	58.8	56.2	46.8	15.9	86.7
3時間以内	179	76.5	46.9	45.8	41.3	8.9	83.8
3時間超	231	72.7	56.7	52.4	40.7	18.2	81.4
＜老後資金の見通し別＞							
まったく心配ない	152	86.2	59.2	58.6	48.7	21.1	90.8
それほど心配ない	626	79.4	61.5	58.1	48.4	15.2	86.6
心配である	290	80.0	54.5	51.0	44.5	12.4	85.5

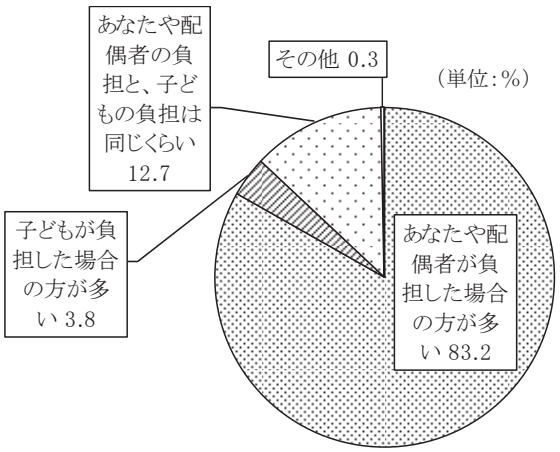
注１：「いずれかの経験あり」は、左の５項目のいずれかについて「現在ある」または「過去にある」と答えた人の割合
注２：「老後の生活資金の見通し」に関する設問文と選択肢は次のとおり（以下同じ）
あなたは、ご自身の老後の生活資金の見通しについて、どのように感じていますか
まったく心配ない　：「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしていけると思う」
それほど心配ない　：「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしていけると思う」
心配である　　：「家計にゆとりがなく、多少心配である」または「家計が苦しく、非常に心配である」

る人では、別居する娘やその子である孫と「買い物」に行った経験のある人が91.1%、「映画・コンサート・スポーツ観戦」では56.7%、「泊まりがけの国内旅行」では67.0%で特に多くなっている。

(2)レジャー・旅行の費用負担

次に、これらのレジャー・旅行の経験者について、その際の費用負担の実態をみる（図表６）。費用負担に関して最も多かった回答は、「あなたや配偶者が負担した場合の方が多い」であり、83.2%を占めた。「あなたや配偶者の負担と、子どもの負担は同じくらい」という人は12.7%、「子どもが負担した場合の方が多い」という人は3.8%であった。子や孫とレジャーや旅行に出かけた経験のある人の８割以上は、自分が費用を多く負担する形でこれらのレジャーや旅行を経験しているとみられる。

図表6　子や孫とのレジャー・旅行時の費用負担



注：回答者は図表5の５項目のいずれかについて「現在ある」または「過去にある」と答えた人

このような傾向に、回答者の性別や孫の学齢、孫の続柄、孫宅までの所要時間による顕著な違いは確認できなかった（図表省略）。これらの属性によらず、子や孫とのレジャー・旅行では、親の側が費用を負担する場合が多いことがわかる。

また、費用負担に関する回答には、自分の老後の生活資金の見通しに関する回答結果との関連をみると、「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしていけると思う」と答えた人では自分が負担した場合の方が多いと答えた人が88.4%を占めたのに対し、「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしていけると思う」と答えた人では85.2%、「家計にゆとりがなく、多少心配である」または「家計が苦しく、非常に心配である」と答えた人では75.8%であった（図表省略）。自身の老後の生活資金の見通しに関して「心配である」と答えた人においても、親世帯が費用を負担する傾向が強いことが確認された。

(3)最も印象深かったレジャー・旅行先

続いて、図表５であげた子や孫とのレジャー・旅行等を経験したことがある人に対し、これまでの行き先のうち、最も印象深かった場所とその理由について自由記述でたずねた結果をみる。

図表7　これまでに行った最も印象深かった場所（上位3項目）＜複数回答＞（単位：%）

1位	テーマパーク・遊園地	12.3
2位	温泉	11.7
3位	海外	9.2

注：回答者は図表6に同じ。自由記述回答に基づくカテゴリー分類

最も印象深かった行き先としてあげられた場所は「テーマパーク・遊園地」（12.3%）

が最も多く、「温泉」（11.7%）が僅差でこれに続いた（図表７）。孫が楽しめるだけでなく、子や自分も楽しんだり、心身を休められる場所が上位にあげられている。

なお、北村（2016）では高齢夫婦世帯における子や孫との食事の実態とその意味について注目したが、子や孫は高齢夫婦世帯の自宅に来て食事をすることが多く、その準備や後片付け等を担うことの多い親世帯の女性は、子や孫とのコミュニケーションを楽しみに感じながらも、それらを負担に感じてしまう人が少なくないことが明らかになった。今回注目した子や孫とのレジャー・旅行の場合、子や孫と自宅以外の場所に出かけることが親世帯の女性を家事等の負担感から解放し、子や孫とのコミュニケーションの時間をいっそう印象深いものにした面もあるようである。

実際に、「温泉」をあげた人の回答に注目してその理由に関する具体的な記述内容をみると、「自宅以外で過ごすので、お互いゆっくりと出来る（68歳、女性、孫は就園前）」「家事を気にせず、ずっと一緒に遊んでいられる（69歳、女性、孫は小学生）」など、自宅以外で過ごすことや、自宅にいると家事が気になることをあげる女性の回答がみられる（図表８）。同様の記述は、「食事、宿泊が我が家では大変だから（75歳、男性、孫は小学生）」など、男性の回答にもみられ、自宅に子や孫を迎えることは、男性からみた場合にも、親世帯にとって負担につながる面があることがうかがえた。

図表8 「温泉」をあげた人で、理由として自宅以外の場所に出かけることによる効用をあげた回答例（抜粋）

年末年始は皆で温泉で過ごすことで、気を使わず一緒に楽しめる	（61歳、女性、孫は就園前）
自宅以外で過ごすので、お互いゆっくりと出来る	（68歳、女性、孫は就園前）
家事を気にせず、ずっと一緒に遊んでいられる	（69歳、女性、孫は小学生）
おせち料理を作らず、（妻が）楽が出来るのと孫が喜ぶので	（70歳、男性、孫は園児）
食事、宿泊が我が家では大変だから	（75歳、男性、孫は小学生）
自宅での食事つくりを省きゆっくり過ごすため	（76歳、男性、孫は就園前）

注：回答者は図表6に同じ。回答は原則として原文のまま掲載したが、意味を損ねない範囲で誤字・脱字等の修正や漢字表記の訂正を行った箇所がある。（）内は、回答者の年齢、性別、最も親しくつきあっている孫の学齢）

3. 高齢夫婦世帯における子や孫とのレジャー・旅行の意向

次に、子や孫と今後行ってみたい場所とその理由に関して、自由記述でたずねた結果をみる。

今後行ってみたい場所について、具体的な行き先を記述した人の割合は78.4%であった（図表省略）。最も多かった場所は「テーマパーク・遊園地」（18.9%）であり、「海外」（9.9%）、「温泉」（7.6%）の順となっている（図表９）。なお、行き先に関する記述内容は孫の学齢によって異なり、小学生以下の人では「テーマパーク・遊園地」が、中高生の人では「海外」がそれぞれ最も多かった（図表省略）。

図表9 今後、行ってみたい場所（上位3項目）＜複数回答＞

（単位：%）

1位	テーマパーク・遊園地	18.9
2位	海外	9.9
3位	温泉	7.6

注：自由記述回答に基づくカテゴリー分類

一方、今後行ってみたい場所について「もう行けない」「行くことができなくなった」などと答えた人では、理由として孫の成長や自分・配偶者の健康状態の変化等をあげる記述が多くみられた。具体的には、「孫たちが大きくなって、私たちとは旅行はしたがらない（74歳、女性、孫は中高生）」、「妻の介護で（73歳、男性、孫は小学生）」などである（図表10）。このような記述は、「これまでに行った最も印象深かった場所」をあげた人の理由でも確認された。具体的には、「孫が小学生のうちにと思い、春休みに合わせて５泊６日の旅行に行った（63歳、女性、孫は小学生）」、「中学卒業祝いを兼ねてスキーに行った。現在要介護状態の夫もその頃は元気で、みんなで一緒に思い切り楽しんだ（66歳、女性、孫は中高生）」などである（図表11）。以上の傾向をふまえると、老後のライフデザインにおいて、子や孫とのレジャー・旅行等を親が望むのであれば、孫の成長や親夫婦の健康状態の変化を見越して、その時期を早めに考えておくことも必要になるようである。

図表10 「もう行けない」「行くことができなくなった」等と答えた人で、理由として孫の成長や自分・配偶者の健康状態をあげた回答例（抜粋）

孫たちが大きくなって、私たちとは旅行はしたがらない	（74歳、女性、孫は中高生）
進学などで忙しくなり、孫に時間がとれない	（74歳、女性、孫は中高生）
孫が忙しいから	（75歳、女性、孫は中高生）
妻の介護で	（73歳、男性、孫は小学生）
子どもや孫の行動に迷惑になるので	（74歳、男性、孫は園児）
私達の健康が弱っているため	（75歳、男性、孫は中高生）

注：回答は原則として原文のまま掲載したが、意味を損ねない範囲で誤字・脱字等の修正や漢字表記の訂正を行った箇所がある。

図表11 「これまでに行った最も印象深かった場所」をあげた人で、理由として孫の成長や自分・配偶者の健康状態をあげた回答例（抜粋）

場所	理由	属性（年齢、性別、孫の学齢）
海外	孫が小学生のうちにと思い、春休みに合わせて5泊6日の旅行へ行った	（63歳、女性、孫は小学生）
自然	大きくなったら付き合ってくれそうもないので、今のうちに	（63歳、女性、孫は小学生）
温泉	中学卒業祝いを兼ねてスキーに行った。現在要介護状態の夫もその頃は元気で、みんなで一緒に思い切り楽しんだ	（66歳、女性、孫は中高生）
自然	3世代でキャンプをしたのは後にも先にもこの時だけ。まだ体力があるうちに決行	（74歳、女性、孫は中高生）

注：回答は原則として原文のまま掲載したが、意味を損ねない範囲で誤字・脱字等の修正や漢字表記の訂正を行った箇所がある。

4. まとめ

（1）子や孫とのレジャー・旅行は、娘親子でより活発

今回の調査から、子や孫とのレジャー・旅行の経験者の割合は、孫の続柄が息子の子より娘の子の人で高く、「買い物」では86.0％、「日帰り旅行」では64.1％、「泊まりがけの国内旅行」では61.5％を占めた。孫がいる娘世帯とその親世帯は、住まいの面では独立した空間に暮らしながらも、余暇の時間をともに過ごすなどして、コミュニケーションの機会をもつ人が多いと考えられる。

なお、北村（2016）では高齢夫婦世帯における別居家族との食事の実態に注目し、親世帯の男女にとって子や孫との食事が、家族とのコミュニケーションの機会であるだけでなく、子世帯に家事や子育ての支援を提供する機会だと意識されているケースが少なくないことを明らかにした。本稿でみた子や孫とのレジャー・旅行に関しても、費用負担に関しては、親の側が費用を負担する場合が圧倒的に多く、自身の老後資金の見通しについて「心配である」と感じている場合でさえも、親世帯が費用を負担した場合の方が多いと答えたケースが８割弱を占める。

このように、子や孫とのレジャー・旅行は、費用負担の側面からみれば、親から子世帯への支援のようにみえる。一方で、見方をかえれば、親が費用を負担してでも行きたい、魅力的な余暇の過ごし方でもあるのだろう。これらの結果をふまえると、親が負担する子や孫とのレジャー・旅行等の費用は、子世帯への経済的支援や親が子や孫のために使う「孫消費」であるだけでなく、子や孫とのコミュニケーションや自宅以外の場所に出かけることで得る、親自身の楽しみや休息のための費用ともいえそうである。

（2）親・子・孫でのレジャー・旅行の時期

子や孫と行ってみたい場所に関する回答では、具体的な行き先を記述した人の割合が８割弱を占めた。過去の経験をみても、買い物などの日常的な余暇とは異なり、旅行に関しては子世帯が近くに住む場合に加え、遠く離れて住む場合でも経験者が一定割合を占める。このような場合、ふだんは遠く離れて暮らしているため、旅行が子世帯と顔を合わせる貴重なコミュニケーションの機会になるのだろう。

なお、今後、行ってみたい場所について「もう行けない」「行くことができなくなった」などと答えた人では、理由として孫の成長や夫婦の健康状態の変化をあげる記述が多くみられた。同様の記述は、「これまでに行った最も印象深かった場所」をあげた人の理由においても確認された。近年、人々の高齢期の過ごし方は多様化しており、就労継続や健康状態をめぐる個々人の状況の違いはさらに広がっていく。こうした状況をふまえれば、老後のライフデザインにおいて、子や孫とのレジャー・旅行等を親が望むのであれば、孫の成長や親夫婦の健康状態の変化も見越して、その時期を早めに意識することも必要になるだろう。

（研究開発室　きたむら あきこ）

【参考文献】

・北村 安樹子，2016，「高齢夫婦世帯における別居家族との食事―母方近居家族にみる親密交流―」『Life Design Report』(Summer 2016.7)：1-12.

・北村 安樹子，2012，「“リタイア移行期”と、高齢期の居場所」『Life Design Report』(Summer 2012.7)：39-41.

・北村 安樹子，2010，「世代間関係にみる「子孝行」と「母系」シフト」『Life Design Report』(Spring 2010.4)：50-52.